

ニシュタの攻防

独りのアマチュア天文家によって新発見の小惑星として報告された「ニシュタ」、しかしその軌道から、太陽系外から飛翔してきた遊星だと考えられるようになった。しかし、専門家の研究が進むと、その遊星が「何者かによって操縦されている可能性が99%を超える」と報告される。人類は緊急調査チームを編成し、彼らを乗せた調査船が打ちあげられる。天王星軌道付近で遊星に再接近しデータを収集し、必要ならば解析し、地球に報告する重大な任務を載せて宇宙船は飛び立った。

導入	クエリー	通常	通常	チャレンジ		決戦	余韻
導入①	発展①	発展① a	通常①	チャレンジ① A B C	チャレンジ② A B C	決戦	余韻
		発展① b					
導入②	発展②	発展② a					
		発展② b					
導入③	発展③	発展③ a					
		発展③ b					

リトライ 2 初期グリット 3 チャレンジ 2 クエリー 3 PC3人以上

PC① 宇宙適性を持つヒーロー

もし宇宙適正を持つヒーローが存在しない場合、スペーススーツを支給して対処する。スペーススーツを装備している間はパワーのうち1つが使用できない。その際はPC①には是非、スペーススーツが邪魔くさいロールプレイを推奨したい。

PC② 飛行特性を持つヒーロー

誰かいるでしょ。

PC③ 地上特性を持つヒーロー

いなかったら詰む。

【導入】

■導入①

地球でも有数のテクノマンサーによって製造された調査船でチームは太陽系を突き進む。接近とともに徐々にニシュタの全貌が明らかになり、球形の宇宙船だと判明する。地球の衛星である月と同等のサイズを持つその宇宙船の内部で行なわれている通信を傍受し、その解読に取り組む中、ニシュタから宇宙船らしき物体が射出されるのを観測。飛翔体は地球へ向けて恐ろしい速度で発射され、異なる軌道で逆方向へ進む調査船ではなんら対処できない。調査隊はその緊張感をさらに高める。

■導入②

調査船から謎の飛翔体が地球へ接近していると報告が入る。地球に直撃した場合、恐ろしいエネルギーを放出する危険があるため、それを防ぐための作戦が立案される。フォースネットによって成層圏スレスレのところまで受け止める「フォースネット作戦」だ。空を飛ぶ能力に長けたヒーローが厳選されフォースネット発生器が配られる。

■導入③

フォースネット作戦の地上側のバックアップを行なうテクノマンサーたちとその護衛を行なうヒーローたち。サハラ砂漠の容赦ない暑さに悶えながらも、地上部隊の間では特にトラブルなく終わりそうなゆるい空気が流れている。しかし、そこに謎の集団がやってくる。彼らは「シャン」の理想郷の存在を信じる信者だという。フォースネット作戦は彼らの理想郷への到達を阻むと考え、その妨害に来たのだった。

【クエリー】

■発展①

調査船が木星軌道に近づく頃 かすかにだが遊星が視認できる大きさになった いまだ天王星軌道付近を遊星は移動しているが 科学者たちの予想通り その遊星は球形こそをしておれど 間違いなく人為的に作られた 物体だった その推進が何のエネルギーを利用しているかなど 一切が不明 ただひとつ確かなことは 現在の人類をもってして同じブツを建造す

る技術力は ないということだった 調査隊はその行程の中ほどから その巨大な 人造物が 地球を目指して移動している可能性について 度々検討を重ねていた また人為的に 作られたその遊星は 地球人類の文明をはるかにしのぐ科学力を持った 知的生命体が建造した 宇宙船ないし基地のようなものではないかと 推測し こちらについても度々検討を重ねていた 仮にこの遊星を 宇宙船だと仮定して そこからは地球に向けて 指向性の高い 電波が射出されていた 調査船はおそらく通信であるその電波の 傍受には成功していたが その解読には なかなか成功できずにいた また奇妙なことに地球からも その遊星に対して やや指向性の高い 電波が送信されている様子だった ただその事実気づいた頃 例の飛翔体が 地球に向けて射出され 地球も調査船も慌てふためいているところに 遊星からおそらくは質量兵器による攻撃を受けた 調査隊に参加した いく人かの科学者の生命と 収集したデータの一部を失いながら 調査船は 自律航行不能な状態に陥っていた pc 1は 生き残った調査船の価格と 調査員たちを 救うべく あらん限りのパワーを使って 過去には調査船と呼ばれたがれきの塊を

- a) 地球の衛星軌道まで 運ぶ選択をすることもできる
- b) 謎の遊星の借りを返すべく 単身突撃することも可能である

■発展②

その頃 地球の関係者たちは調査船が致命的なダメージを受けたことを知らずにいた 慎重な調査団の人間達とは違い 地球に残った 関係者たちは 遊星が地球への攻撃の意思を持っていると 確信していた 遊星から射出された飛翔体はそれほどまでに破壊的な速度であったからだ 飛翔体が質量兵器なのか それ以外の目的のものなのか 判断をするには情報が少なく 最悪のケースを想定して 決死の覚悟で行われているのが このフォースネット作戦だ 飛翔能力を持つ ヒーローを多数動員し 重く無骨なフォースネット発生器を 大気圏ギリギリから 地上 1000 メートルほどの高さまで 幾重にも配備する 報告では 下手なランドマークタワーほどの 巨大な飛翔体だという そのままの速度で地表に突っ込めば 地球全体の気象が変動するほどの恐ろしい破壊力となる サハラ砂漠上空に緊張が走る そこへ 引きつった声の通信が入った 「飛翔体の反転、減速を確認しました！なおも減速中です！ 宇宙船のようです！」 作戦に参加する 上空のヒーロー全員がその通信を受け取るとまもなく 上空に強く輝く 虹色の光の点が 目視できるようになった 光の点は徐々に大きくなっていき 現段階では暑いのか冷たいのかもわからない その光は 推進装置の類であることがわかり 紡錘形のその巨大な物体の 底面から 地表に向けて減速すべく逆噴射しているのであることがわかった 作戦に参加してるテクノマンサーの一人が「くそ通信障害か！ あの虹色の光のブースターのせいだ！」 と叫んでいる 地上からは ひどくノイズ混じりの 人間の声が通信にのって聞こえているが フォースネット作戦を続行するのか中止するのか 判断がつかない「どうしろっていうんだ！やるのかやらないのか！」 上空 1 万メートル 気温 -30 度 もう猶予はない

- a) フォースネット作戦を決行する
- b) 別の方法を模索する

b) を選択した場合プレイヤーから即座に申告がなければフェイズを終える。

■発展③

その頃一番混乱していたのはサハラ砂漠地上であった 謎の狂信者の襲撃 に加えて 現場司令部は作戦を続行すべきか中止すべきかもめにもめていた しかもそこにかけて加えて 謎の通信障害が 発生している 今ここで作戦を判断したところで 空中にいるヒーローたちには伝わらない 地上のバックアップを 行なうはずの ヒーローたちは 思いがけず 非武装の 集団にまとりつかれて うかつに反撃もできない状態になっている その折 謎の集団の中に 大声をあげる男性がいた「船が着陸するぞ！一旦離れよう！」 どーもその男が 集団を率いるリーダーのようだ 作戦司令部は 空中舞台への 指示伝達を諦めたようだ「着陸してくるぞ！攻撃の可能性に備えろ！」 と大声で叫んでいる。

- a) 狂信者たちのほうへ向かう
- b) 着陸する船へ備える

【通常】

■発展② a

とっさの判断でフォースネット作戦を実行した君たちは 減速する宇宙船を 空中で停止することに成功した 宇宙船の中からは 何らかのパワーを持っていると思われる 人型が 何人か飛び出してきた 頭からはひん曲がったアンテナのようなものが生えている ロ々に何かを言っているが 地球の言語ではないのだろう 幾重にも取り囲む地球のヒーローを見て 銃の様なモノを射ちながら中へ引っ込んでいった ヒーローたちは急に撃ってきたのでいささか驚くが、そのまま突入してあっという間に制圧する

■発展② b

特に提案なければ宇宙船を追って発展③ b へ

■発展③ a

砂丘の陰に隠れる狂信者たちの中からリーダーと思しき人物を君は発見することに成功する

尋問すると彼らはシャンの理想郷を信じる信者で、地球へシャンの使いがやってくると知って理想郷へ運ばれるべくサハラ砂漠に集まったのだと言う、しかし君が目話を話した際にリーダーらしき人間は信者に紛れてどこかへ消える

■発展③b

着陸する船に備えると発展②でフォースネット作戦決行の場合は船が降りてこないで発展③aにスライドする。フォースネット作戦が取りやめになった場合砂を巻き上げて巨大な円錐形の宇宙船が砂漠に降り立つ。それを見ると隠れていた信者たちが宇宙船に殺到する。その駆け寄る集団の一番後ろから先ほどのリーダーらしき人物がゆっくりと船に歩み寄る。

■発展①a

いささか 調査隊を含む 人類は プレイヤー①の パワーを過小評価していたようだ 少々骨は折れるが 一軒家程度のものであれば 木星軌道から 地球の静止衛星軌道まで 荷物を運ぶぐらい 造作もないことだった しかし主要な通信機能などを奪われた状態で 地球との連絡がつかない 飛翔体の 行方と 遊星の調査を完遂できなかったことは 心残りだが 何よりも救える人命を 救ったのだ 調査船の大破は 地球からの観測によって 既に知られていたらしく 万全の態勢で出迎えてもらうことができた 調査船は地表からでは入手できない貴重なデータを大量に持ち帰った 地球で得られた情報と照合することによって 地球の専門家たちはようやく事件の全貌を把握し始めた

■発展①b

宇宙空間を突き進む ヒーローの前に 謎の人型生物が立ちはだかった、頭からはよれよれのアンテナのようなものが生えている 何かをつぶやいているようだが 当然音は聞こえないし 口の動きを見ても地球の言葉とは到底思えない 腕が4本あることを除けば ほとんど人類と変わらない見た目のそいつは やはり人類と変わらない 下品な笑みを浮かべて 攻撃をしてきた 近づくとか何かしゃべってるのがさすがに聞こえる 薄ら笑いで軽口を叩きながら 戦いを優位に進めているつものようだが なにぶん動きが鈍い その程度の動きで戦闘を仕掛けてきたのかと半ば呆れ気味に様子を見ると 急に地球の 言語を話し始めた 翻訳装置のようだ

「こんなところでボヤボヤしていていいのか？そろそろお前の惑星に別のエージェントが到着している頃だぜ？アイツらもオレほどじゃないがなかなか強いヤツだからな！まあ、おれも慈悲がないわけじゃない、お前の死体はお前の惑星の大気圏に投げ込んで流れ星にしてやるから感謝しな！まあ、そのお前の故郷もシャン様に丸裸にされるんだけどな！」

PL①は適当にそいつをあしらって良い。そして地球に急いで帰ることとする。

【通常】

■通常①

サハラの着陸船はヒーローたちによって制圧され、そのまま嚴重警備でサハラに置かれている。ヒーロー①は地球へ帰還し、今回の作戦の総司令に呼び出される。

「ひとまず急な要請に応じてくれて感謝している。手短かに白状させてもらうが、今回の一連の事件は我々『旧』人類の手に余る。すまないが包括的に事件に対処してくれないか。いまだ解析中だがここまでに判明した情報を全て伝えよう。」

司令官の話を要約するとこうだ

サハラに集まった信者たちはシャンの理想郷の存在を信じる人々だということ

あの遊星の名前はニシュタと言う名前であのニシュタこそがシャンの理想郷ではないかということ

信者たちを先導した指導者がいるらしいが信者達は決してその指導者が誰であるか口を割らないということ

調査船への攻撃 着陸船からの銃撃また着陸船を制圧する際に見せた彼らの抵抗そして着陸船に寄せられていた武器らしきものを見る限り 彼らは敵ではないかということ

そして彼らの科学力を見るにあたり 彼らの主力と地球連合軍が戦えば必ず地球は負けるであろうこと

そして今回の件をヒーローたちに一任することについて連合軍の中では多数の反対意見があること

しかし 司令官自身は出来る範囲でバックアップはしたいと考えていること

「そのために君の力になれそうなヒーローをリストアップしておいた、君が選んだヒーローは必ず説得してみせる。頼む、地球を救ってくれ。」

こうして対ニシュタ戦のためにヒーローが集結します。

【チャレンジ】

■チャレンジ①

チームとして集まったPCたちは

- A) 狂信者たちのリーダーの搜索：心理判定、ただしPL②は追憶+30%でも判定が可能。
B) 傍受した通信の解説：科学判定、もし破壊された調査船を持ち帰っていれば科学+50%で判定が出来る。
C) 対宇宙戦闘装備の準備：交渉-30%判定、この交渉に成功すると宇宙適性がないキャラクター用の高性能なスペーススーツを入手できる。の不利を宇宙空間ではパワー1つを犠牲にして消せる。犠牲になるパワーは自分でえらべるがセッション中では変更は出来ない。ただし、スペーススーツの機能を解除することは出来るので、その場合は普通に宇宙空間として判定を行なう。スペーススーツの機能解除は特殊なタイミングで代償無しで行なう。機能の復帰は10ターンを消費する。

- A)B)に成功できないと奉公人フェンテとヘンチマンの組み合わせで地球を舞台に戦闘となる。浪費2。
C)に成功できない場合は高性能なスペーススーツが入手できないだけに留まる。

■チャレンジ②

拘留されている狂信者たちの中からリーダー「青木」を発見したヒーローたちは 一見ひ弱そうだが怪しい瞳の輝きをした青年から事情聴取を行う

- A) シャンについて 交渉若しくは意思判定、ただし宗教に傾倒が深そうなキャラクターは 心理+10 を認めてもよい
B) 鹵獲した宇宙船の操縦 操縦判定 フォースネット作戦を実行していた場合 操縦+20%
C) 小惑星を利用して潜入 隠密判定

チャレンジ A) に成功すると 挑戦者たちのリーダー の尋問に成功する 彼は薄ら笑いを浮かべながらため息混じりに「馬鹿な連中だよ」と そう話し始めた 「僕は ニシュタが発見された直後に ピンと来てあの星から発信されてる電波を拾おうと思ったんだ みんながまだ小惑星だって信じてる頃 アレが巨大な宇宙船だとわかってたんだよ 感じたんだ僕は誰よりも早くメッセージを拾ったんだ 彼らは極めて誠実で 率直な連中だった 彼らが地球に来る目的は 地球人を奴隷として欲しがってる連中のための 商品を仕入れに来たんだ 後は 宇宙にちょくちょく園芸マニアのために 主に地球の砂が欲しいらしいけど 他にも得るようなものがあったら何でも持っていくつもりなんだ 地球人は彼らには勝てない だから僕は出来るだけ平和的に 彼らのために 案内人を買って出たんだ 彼らに目をつけられたら 地球は遅かれ早かれ 身ぐるみ全部ひっぱがされて しまう でも地球人は このちっぽけな惑星を出て 銀河に進出することができるんだそれが全員 奴隷の身分だったら 惨めな話だろう でもそんな中で 僕が 彼らのエージェントとして 地位を向上することができれば 遠い未来には 地球人が銀河の一級市民になることだってできるかもしれない 実際に1級市民と言う概念があるかどうかは知らないけれど 奴隷の身分のままではいられないでしょう エージェントになるとパワーがもらえるんだ 君達みたいな人間の出来損ないを見て 嫉妬しなくても済むようになるんだよ 僕が言ってること嘘じゃないってすぐにわかるさ」 そう話し終えると彼は見下すような薄ら笑いを浮かべて ヒーローたちを見ていた

元司令官から連絡が入る ヒーローたちがリーダーを特定したためリーダーの部屋の捜査が行なわれたのだ 彼の部屋からは ニシュタとの通信記録のすべてと 通信に使われてる暗号のコード 更にその中には ニシュタの内部の 見取り図も含まれていた その内容は 青木が 奴隷商人であるシャンに対して 服従を誓った事実を 第三者が 納得するに十分たるものだった 協力者である 元司令官は こんなものをこれ以上地球に 近づけてはいけないと 警告ではなく 通話の向こうで嘆願した。

- B)に成功した場合地球での戦闘を避けることが出来ます
C)に成功した場合は戦闘時にザコが2体に減少します

【決戦】

■ニシュタでの戦闘

チャレンジに成功して地球エリアでの戦闘を避けている場合はニシュタで戦う
その場合、エリア1とエリア4はそれぞれ宇宙エリア

シャン1体 (エリア4) フェンテ1体 (エリア4)
ザコはP218のセキュリティーガードをPC数+2体 (エリア3に登場)

■地球での戦闘

地上での戦闘ではエリア2とエリア3は不整地
また全員が浪費2の状態にあるとする

フェンテ1体 (エリア4) ザコはP218のセキュリティーガードをPC数+4体 (エリア3に登場)

ヴィラン：奴隷商人シャン 鎌倉の大仏ほどの大きさがあり不定形の半透明の胴体(?) の中を赤茶色の巨大な頭部が出たり入ったりしているが完全には離れない様子。頭からは延びきらないアンテナのようなものが4本生えている	移動：宇宙 水中 肉体5 精神50 環境100 Life16 San12 Credit100
パワー「液化化」 行動順ロール直後に隠密状態になる、一回使うとイベント終了まで使えなくなる	パワー「厄介なオモチャ」 エリア1~3から対象をランダムに選ぶ。 運動-10%で回避できる1D6（最低3）ダメージの攻撃 代償はターン8
パワー「防衛システム起動」 シャンのターンが10を超えると行動順を待たずに自動的に使用されるスキルで、1D20を振り出目のターンに載っているキャラクターは2D6のダメージを受ける。このD20はパワーの影響で振りなおしになる可能性がある。代償はターン10。	
ヴィラン：奉公人フェンテ 8階建のビルほどもある巨大な体を持ち顔に当たる部分は機械化されているのかヘルメットをかぶっているのか分からない 頭からは4本のみすぼらしいアンテナ状のものが生えている 指の長い手と、足があるのか分からない円筒形の下半身を持っておりリーチが長い	移動：地上 宇宙 肉体60 精神50 環境50 Life30 San30 Credit30
パワー「平手打ち」 リーチ2 対象1エリア 目標は運動+20%で回避 2D6 ダメージ 代償ターン12	パワー「目(?)からビーム」 射程3 目標は運動で回避ダメージは1D6+2（最低5） 代償ターン5
パワー「防衛シェルター起動」 シャンが一撃でも攻撃をもらうと、強制的に戦闘を終了し、シャンとともにシェルターに逃げ込む。	

【余韻】

「シャン様が倒された」 その言葉がニシュタの中を駆け巡った 多くの奴隷が一斉に蜂起し 人質になっていた家族を助け 停泊してあった 商船を奪って ニシュタを離れていった しかし シャンが倒れていないのは明白で 地球からやってきたヒーロー達は この巨大な人工惑星のなかで 奴隷商人たちを追撃しようか 迷っていた そこに 声をかけてくる人物がいた その男はダンと名乗り 遙か彼方の星系で拉致された エンジニアで 星系から拉致された奴隷たちのリーダーだった ダンは あのシェルターは 一度閉じると 一定時間は中からも外からも開けることができません 自動翻訳装置から流れる 彼の声は 誠実さと温和さに溢れていた 地球の皆さんの言うところの 1年以上は このままです 1年経ったとしても 地球の皆さんを用意に倒すことはできないと悟ったでしょう それよりもニシュタの 危機を察知して 集まってくる シャンのエージェントの方が厄介です 早く脱出してしましましょう

ダンとダンの故郷から 連れてこられた 多くの奴隷たち…いや、今は自由の身となった元奴隷たちと合流し ヒーローたちはニシュタをあとにした 彼らが地球に帰るのはもう少し先の話 そしてそれはまた別のお話



強襲イーグルアン

ダンとその一団はPC達とは違う船で脱出するがニシュタの私設軍隊からの追撃を受ける。

導入	クエリー	チャレンジ	クエリー	チャレンジ	通常	決戦	余韻	
導入①	発展①	チャレンジ①	発展② a	迎撃ルート		決戦	迎撃ルート	アオキ
導入②			発展② b	チャレンジ②	逃亡ルート		逃亡ルート	
導入③		発展① b						

リトライ 1 初期グリット 3 チャレンジ 1～2 クエリー 1～2 PC3 人以上

【導入】

■導入①（※参加しないプレイヤーは全員が導入②・③に参加すること）

宇宙船の窓から追っ手を一瞥すると宇宙へ飛び出していったヒーローもいたが、この程度なら大丈夫だろうとタカをくくって君たちは船内に居残った。ダンの船から救難信号が出ているが、飛び出したヒーローの宇宙での戦闘能力の高さはこの数日嫌と言うほど見せ付けられた。足手まといになるぐらいなら船を守っていたほうが良いだろう。ダンの船から入る通信に適当に受け答えをすると、ダンとその一団は土星の衛星タイタンへ向かっているので近くまで護衛してくれないかと言う、その依頼を快諾すると ダンの誘導で土星の衛星タイタンの軌道にのった

■導入②（※ニシュタの攻防に参加したプレイヤーで導入①に非参加のプレイヤーは全員参加）

追撃する シャンの私設軍隊に お灸をすえるべく 宇宙へ飛び出したヒーローたちは 手心を加えながらも 兵士たちを撃退していく 追っ手たちが追っ手の体をなさないほどに散り散りバラバラになると 君たちの宇宙船が進路を 変え始めた宇宙船に乗り込むとカクカクシカジカでタイタンへ向かうと言う

■導入③（ニシュタの攻防に参加しなかったプレイヤーは全員ここに参加）

地球を救うため宇宙へ飛び出すヒーローたちのリストには入っていたが 選抜から漏れた君たちは 手をこまねて待っているだけかと思いきや 意外な来訪者を迎えていた シャンと地球で落ち合う予定だったエージェントが 輸送船で単身乗り込んで来たのだ 地球はシャンを撃退したニュースに驚き歓喜していたが エージェントの来襲により その平安は打ち破られていた しかし 幸か不幸か 地球には未だ協力がヒーローが 強いて言えば よそ者にしまを荒らされるのを良しとしないヴィランたちが まだまだ犇めいていたので 連合軍の上部の人間はかねがね楽観的であったし エージェントと対峙したヒーロー達はさらに楽観的であった なんならヴィランも数人 その撃退戦に参加していたのだが 途中で気分を害して帰ってしまう程度には 歯ごたえのない連中だった

「くそ！こんな野蛮人に負けるなんて！殺せ！」

ヒーローが殺さない旨を伝えと まだ攻撃を続けようとするが 確かに単体では そこそこ強力なエージェントなのかもしれないが なまじ地球人たちが身構えたせいで 地球に残った 屈指のヒーローたちが 数を揃えて待っていたので エージェント動き自体が完封されてしまい 今や非常に物悲しい景色 となっていた

ヒーローの一人に警察から 入った通信によると そのエージェントは逮捕はできるが 罪状は極めて軽く 迷惑防止条例違反と宇宙船を勝手に着陸させた道交法違反程度のもので ヒーローが先制攻撃したために 障害未遂すら取れないらしい その悲しい軽犯罪者は すっかり心を打ち折られて 初犯であることと 文化的な事情で 二日ほど事情聴取を受けた後 神妙な面持ちで警察署の 正面玄関で釈放された 行きがかり上なんとなくで迎えたPC達は 控えめに待ち構えた報道陣に適当に受け答えをしてから 彼の今後について話し合うことにした 当初信じられなかった彼も 地球人のヒーローによって シャンが一撃かまされたこと そして マニュアル通り 緊急避難用のシェルターに こもって 助けを待っていることを 認めるようになっていた

「だったら私も故郷のみんなを助け出したい」

あなたたちは彼の要請でニシュタへ向かい彼の同胞を救い出すことになった

【クエリー】

■発展①

ダンの同郷の人間がタイタンへ集まってきた。ダンと銀河の遠く離れた場所にある故郷へ帰るためにはワープドライブが必要だという。そのためにここに一時拠点を築き何らかの方法で銀河政府に連絡を取るかワープドライブを自分たちで作らなければいけないという。

「銀河政府にはシャンの息がかかった連中も混じっています、慎重にやらなければ私たちが犯罪者扱いされてしまう」既に銀河政府の 調査機構が こちらに向かっている ことを確認しているそうで どんな人間がこっちに向かっているかで 先行きは不透明だと そういつも 不便ながら自由を手に入れた彼らは 少し明るい表情に見えた導入③のエージェン

トも彼らと 故郷を同じくする そうで 進路変更してタイタンに合流した 彼らは 自分たちが乗ってきた 宇宙船を 改造して あっという間に 拠点を築き 土星の数々の衛星から 資源を採掘する計画を立て始めた 彼らの話を聞くにあたって 銀河政府と言う 組織は たまたま地球の言葉に翻訳した時に銀河政府という言葉になるだけで 単純に利害関係でつながっているだけの 組織らしく 基本的には 資産を多く持っている 団体の発言力が大きい 効率的ではあるが 公平性中立性には乏しい組織であると 徐々にわかってきた 地球のような未開の惑星に干渉してはいけないというルールも まかり間違っても 原始人に強力な兵器を持たせるとろくなことにならないと言う そういった発想がもとになってできているルールらしい ただし そのルール自体の強制力はかなり強いので 今回の一件で シャンが一切ペナルティを受けないと言うのは考えにくいらしい それと同じく 奴隷の逃亡自体もそれは罪なので 今彼ら自身も 銀河政府から見れば 取り締まるべき対象なのだが 奴隷商人として シャンのやり口が合法であるというわけではないので その違法性を立証できれば すぐにでも自由民に戻れる ただその手続きに シャンの息がかかった人間が割って入ると話が複雑になるので それをもってして 慎重にやらなければいけないというそういうことだそーだ

君たちはしばらく彼らの無事を見届けることもできるし 集まった宇宙船の中の一台を借り受けて 地球に帰ることもできる

- a) 暫く留まる
- b) 地球へ帰る

【チャレンジ】

■チャレンジ①

彼らのところにしばらく止まることを選んだあなた達は 慣れない環境でヒーローパワーを使うために いくらか工夫をする時間を手に入れた

- A) スペーススーツをアップグレードする 交渉若しくは科学に+40%で判定 成功すると スペーススーツを装備しているすべての ヒーローは 宇宙空間による制限を受けなくなる
 - B) 遠隔エネルギー供給装置 生存+20%で判定に成功すると 移動適正宇宙を持っているキャラクターは ラウンドやイベントの終わりに パワーサニティクレジットを1ずつ回復する この能力は 土星の衛星圏でのみ 効果を発揮する
- 2つのチャレンジを失敗した場合特にペナルティは存在しない

【クエリー】

■発展②

数日後 タイタンの住人 何やら騒がしい 地球のヒーローの皆さん 大変な事になりました シャンの依頼を受けた 賞金稼ぎが 我々を攻撃するためにこちらに向かっているそうです シャンが抱えていたエージェントたちなど比べ物にならない強敵です 私たちは最悪投降しますであなた方は地球にお逃げください

- a) 迎撃する
- b) 逃亡する (チャレンジ②に)

【チャレンジ】

■チャレンジ②

彼らのその後は心残りだが あまり地球も開けていられないと判断した君たちは 適当な宇宙船を見繕って地球へ帰ることにした その岐路の途中タイタンから通信が入る

「シャンの依頼を受けた賞金稼ぎが接近しています！こいつはマジでやばいやつです！」

- A) 賞金稼ぎの高速船からの初撃を回避する 操縦-20%で判定 失敗すると浪費2

その後、逃亡ルートへ

【通常】

■「迎撃」ルート

ヒーローたちの決意を聞いて ダンは 何度もそれを止めようとしたが 最終的には折れて イーグルアンがどれほど恐ろしい敵であるか 説明し始めた 「そもそもイーグルアンは 単なる殴り合いや打ち合いでも相当に強力だときいています が、 我々が今いる場所に問題があるんです 今我々が 滞在している この皆様が土星と呼んでいる惑星には 宇宙でも稀に見る美しい輪を持っています 普通惑星は ある程度の大きさになると それに近い形をしていて そこから発生する引力は 球の中心に向く形になります このような輪の特殊なところは 引力自体はそこまで強くないのですが 平坦に質量が長く続いている急いで そこから発生する引力の 様子も 球の惑星とは異なるものになります イーグルはもともと そう

した惑星や衛星にできる リングが作る引力場を 亜光速で滑走するスポーツの出身なんです これほどに大きなわと これほどに大きな輪を持つこの土星は自身の引力も強くイーグルアンにとって絶好のロケーションです 地球にもルーレットという遊びがあるでしょう まさにあの原理です そして土星の引力、要するに土星におちていく力と自身の推進力を使って 恐ろしい速度に加速します。 どうしても戦うというのであれば少しだけでもともに戦えるように私が何とかします。」ダンが数時間で組み上げたのは謎の靴「FG ブーツ」だった。「これがあれば彼らと同じように 平面引力場…要するにリングの上に立つことができます。 逆にこれを履いていないと攻撃を受けた時に小惑星が密集するリングの中に叩きこまれ かなり困難な戦いを強いられるでしょう。」決戦の準備は整った。

イーグルアンは 何人かの仲間を引き連れて 土星のリング の上を サーフボードのようなもので滑りながらやってきた 「これはこれは素晴らしい まさかこのように お互いにリングの上に立って相対することができるとは わざわざこのような銀河の果てまでやって来た甲斐があるというものです 私としては 肥溜めの化身みたいな シャンの依頼を受けるのは あまり乗り気ではなかったのですが …本当でございます どうしてもと言って金を積むので いやいや引き受けたのでございますが シャンの所のエージェントを 蹴散らすほどの実力を持った皆様 そのような強敵の皆様が これほどまでに美しいリングの上で 私などのことを 待っていてくださったことに 非常に大きな感動…今感じているわけでございます しかも 皆様のその眼差しを見ておりますと 場合によっては味方として お会いしたかもしれないところ 敵として お会いすることになるとは…いやいや 不謹慎かもしれませんが こんな幸福なことはなかなかないと そうは思いませんか皆様」イーグルアンは仲間にハンドサインを送ると数名は帰っていった。「私どもも○人、そちら様も○人、生きて皆様を捕らえるのが任務でございますので極力殺し合いは避けたいところですが、手加減はお互い難しそうですよね。」そうして戦闘は始まった。

■「逃亡」ルートチャレンジ②から

土星の夜の川からスイングバイして帰ろうと思った君たちの前に 極彩色でペイントされた 見るからに早そうな船が現れるのに時間はかからなかった

「地球のヒーローの皆さん 土星の夜にこんばんわ 初めてお目にかかります イーグルアンと申します シャンのクソ野郎のところの エージェントでは全く歯が立たなかったそうで 私自身も あの宇宙の排泄物みたいなやつが どうしてもと言って金を積むので いやいや引き受けたのでございますが それはそれ、これはこれ こんな宇宙の端っこで 強敵であらせられる皆様を こうして星屑に出来る機会が得られるとは光栄でございます。」

【決戦】

1～4エリア全てが宇宙

全ての敵はエリア4からスタート

イーグルアン1体

イーグルアンのクルー 逃亡ルート→PC数+1体/迎撃ルート→PC数-1体)

ヴィラン? : イーグルアン スーツでよく見えないが肌はきらめく青緑、目は複眼のように見える。顔の造形は地球人と似ているがやはり節足動物かもしれない。話し方は丁寧だが芸術家肌かつ脳筋。	移動適正 地上宇宙水上 肉体45 精神35 環境40 Life20 san16 credit16
パワー : テイクオフ 行動順ロール直後に行動順に-3 微かな兆しを読み取って一気に波に乗ります	パワー : カットバック 85%で成功判定 代償ターン3 任意のエリアへ移動する 急旋回もお手の物
パワー : エルロロアタック 射程4 (攻撃後に1D4を振り出た目のエリアに) 75%で成功判定 代償ターン10 目標は運動判定を行い失敗すると2D6+3ダメージ またFGブーツなど履いていない場合は転倒した上で隠密エリア (リングの水面) に送られる 強烈なスピンをしながら突進するテクニック	パワー : コズミックサーフィン' GO!GO! 射程隠密エリアに対して 代償20ターン 隠密エリアにいる全てのキャラクターに1D6(最低3)のダメージを与える リング平面を大きく旋回しながらリングに大きな波紋を作る技。 気分がノッていたら惑星の輪を亜光速で一周するのが見られるかも。

ヘンチマン？：イーグルアのクルー 移動適正地上宇宙 種族はまちまち。イーグルアを慕っている陽気なやつら。	肉体 45 精神 35 環境 35 Life16 San16 credit12
パワー：テイクオフ*イーグルアに共通	パワー：カットバック*イーグルアに共通
パワー：エアリバースアタック 85%で成功判定 代償ターン10 目標は運動判定を行い失敗すると2D6ダメージ またFGブーツなど履いていない場合は転倒した上で隠密エリア（リングの水面）に送られる 大きくジャンプしながら攻撃するテクニック	パワー：コズミックサーフィン 射程隠密エリアに対して 代償20ターン 隠密エリアにいる全てのキャラクターに1D6-1のダメージを与える リング平面を大きく旋回しながらうまく行けばリングに大きな波紋を作る技。気分がノッていたら惑星の輪を亜光速で一周するのが見られるかも。

【余韻】

■迎撃ルート

イーグルアが声をかけてきた「地球の皆様、今宵はここまでにはいたしませんか？この惑星は美しい。シャンなどという宇宙一醜悪な水生生物のゲロのためにあなた方のように優秀な方々が心を砕くのはやはり間違っています。銀河政府には私から言っておきましょう。シャンの不正の証拠なんて星の数ほどあるでしょうし、シャンが普段そうしているように不利な証拠の百や二百でっち上げてもバチは当たらないでしょう。あなた方の健闘は銀河に讃えられるべきですが、なにぶんまだ地球文明には不可侵が効いておりますので…代わりに私たちの胸の中に美しい輪を持つ惑星と、その星系に住む高潔で誇り高く、勇敢な種族がいることを刻んでおきます。」土星の輪の裏側から極彩色に彩られた彼らのクルーザーが姿を現した。彼らは流麗な軌道で土星の輪を何度かうっとりと回った後にジャンプして船に吸い込まれていった。

暫くすると太陽系の引力系を壊しかねないニシュタはさらに高度な文明機械によって曳航されて太陽系から撤去された。タイタンを仮住まいとする友人たちは銀河政府の救援を受けて帰れることになった。シャンに荒らされた母星を復興するのだそうだ。

「本当はいけないことなのですが、シャンのようなあくどい連中が、再びどんな気を起こすか分かりません。タイタンの基地は残しておきましょう。太陽系の内外を警戒できる態勢を整えておくべきです。」

ダンはそう言って遥かな故郷に帰っていった。タイタンでは水やアンモニアからトリチウムを製造する装置が既に稼動していて、ドームの中は地球と近い組成の空気が循環し始めている。数人の宇宙型のヒーローが既に駐留を希望していると地球から報せが来た。持ってきたドライフードも底をつき始めている。ヒーローたちは地球から派遣されたヒーローと入れ替わりにやっと地球へ帰っていくのだった。

■逃亡ルート

そうして地球の平和は守られた。ヒーローたちは地球に帰還した。

※希望者は個々の余韻フェイズを実施しても良い。

■アオキ

拘置所の面会室に一人の男性が訪れていた。

青木「お久しぶりです『お父さん』ずいぶん前に火葬したはずなのにお元気そうですね」
 ??「『コウチショ』と言う所は意外とスナリ入るものですね。まあ所詮、野蛮人の文明なので…これをお届けに来ました。」
 謎の男が青木との間を隔てている面会室の亚克力板に手を当てると、亚克力板はあっさり溶けた。そして青木に差し出したのは枯れ草のようにとろとろ曲がったアンテナ状の物体だった。監視員が「お前ら何してる！」と声を挙げたのも束の間、青木から放たれた何らかのパワーで監視員は気絶した。
 ??「エージェントアオキ殿、シャン様をお救い下さい。やはり地球人は遺伝子が不安定なようで…パワーが強い。」
 アオキ「まずはこのパワーをしっかりと試してからだね。何せ慣れないもので。」
 顔をゆがめて笑う青木、その頭にはシャンのエージェントであることを示すアンテナが生えていた。



イメージ図。ぬりえにもなる。
そして主星を書いていない。